

一一四 火葬場祭詞

言ふも悲しく思えば涙ぐましき故天理教〇〇分教会〇代
会長△△△△大人の御柩の御前に白さく

あわれ汝大人はや世の遠人永人と思ほせどもこの年〇月〇

〇日おたすけの帰り道にて俄に倒れられ救急車にて〇〇
病院に入院されしが遂に意識も回復することなくいと

安らかに身退り坐しけるは誰やし人が思い奉りしか さわれ
云うて帰らず 思うも甲斐なし

されど病床にありて些かも苦しみの表情なく 痛みを訴えら
れし事の無かりしは実に親神の温かき親心ならむ あ、最後
のお別れの玉串捧げ奉らくを平けく安らけく聞食して
御遺骸はこれの火葬の場に御供仕え奉り 空しき烟と成さ
しめ奉らむとす

御遺骸は鑄に収めて一時大人の衣の住所ともなりつらむ

あ、この状を甘らに安らに聞食し諾い給いていきどおり給う
事なく淀み給う事なく 御霊は正しく親神のふところに抱

かれ給いて 現世の家族親族諸人等を夜の守り日の守りに
恵まい幸え給えと露けき袖の涙をしぼりつ、 慎み敬い恐

みくも白す